

スーパーマーケット景気動向調査

2015年12月調査結果（11月実績）
（12月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

12月調査（11月実績）結果概況

景気判断DIは現状判断45.8と悪化、5月をピークとした下降トレンドが鮮明に

11月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は前月から-4.4の45.8、見通し判断前月から-3.3の43.4となり、共に大きく悪化する結果となった。

経営動向調査結果はすべてのDIが前月に比べマイナスとなっている。なかでも生鮮品仕入原価DIが青果相場下落の影響により7.6（前月比-6.8）と12カ月ぶりに一桁プラスの水準まで低下、また来客数DI-11.0（前月比-7.0）と二桁のマイナスを記録した。販売価格DIや客単価DIも小幅に低下しており、その影響により売上高DI-3.3（前月比-6.6）を大きく悪化させているとみられる。

カテゴリ動向結果でも、すべてのカテゴリで前月に比べマイナスとなっている。なかでもこれまで好調な動向を牽引していた生鮮3部門（青果DI/畜産DI/水産DI）で落ち込みが大きくなっている。11月が平年に比べ気温が大幅に高く、鍋等の冬物商材の動きが鈍かったことや一部の生鮮品相場が下落したことなどが影響していると考えられる。（カテゴリ動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査は、前月はわずかに持ち直しをみせたものの、当月は一転して大きく悪化する結果となった。各DIの推移グラフや周辺地域景気判断DIの長期傾向でも景況感は5月をピークとした下降トレンドが鮮明になっている。（景況感DI推移グラフ、周辺地域景気動向DI長期傾向参照）

季節外れの気候に加え、これまで売上を牽引してきた生鮮品が伸び悩むなど強い逆風を受けた月となった。6月以降は来客数DIのマイナスを客単価DIのプラスでカバーする状況が続いていたが今月はどちらも低下する結果となっている。次月以降も来客数DIと客単価DIの動向を注視する必要がある。

景況感調査

現状判断

景気判断DI
当月：45.8（-4.4）
前月：50.2

消費者購買意欲DI
当月：46.8（-2.4）
前月：49.2

周辺地域 競合状況DI
当月：41.6（-1.4）
前月：43.0

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：46.7（-1.4）
前月：48.1

見通し判断

景気判断DI
当月：43.4（-3.3）
前月：46.7

消費者購買意欲DI
当月：45.0（-3.2）
前月：48.2

周辺地域 競合状況DI
当月：40.3（-0.3）
前月：40.6

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：46.4（-0.3）
前月：46.7

経営動向調査

経営状況

売上高DI
当月：-3.3（-6.6）
前月：3.3

収益DI
当月：-2.7（-3.7）
前月：1.0

販売価格DI
当月：8.0（-3.2）
前月：11.2

客単価DI
当月：7.9（-1.4）
前月：9.3

来客数DI
当月：-11.0（-7.0）
前月：-4.0

生鮮品仕入原価DI
当月：7.6（-6.8）
前月：14.4

食品仕入原価DI
当月：10.8（-1.7）
前月：12.5

カテゴリ動向

青果DI
当月：4.6（-10.6）
前月：15.2

水産DI
当月：-7.0（-5.7）
前月：-1.3

畜産DI
当月：-2.8（-5.9）
前月：3.1

惣菜DI
当月：6.1（-5.0）
前月：11.1

日配DI
当月：-0.8（-3.4）
前月：2.6

一般食品DI
当月：-1.8（-2.0）
前月：0.2

非食品DI
当月：-11.7（-6.7）
前月：-5.0

○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

12月調査（11月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2011年4月～）

1. 売上高DI

3月以来8ヵ月ぶりにマイナス圏に

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	4.4	21.8	32.0	39.6	2.2	3.3
売上高（当月）	7.4	26.0	39.7	26.5	0.5	-3.3



2. 収益DI

3月以来8ヵ月ぶりにマイナス圏に

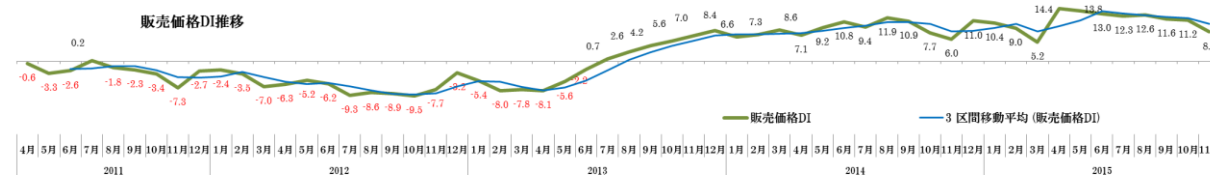
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	5.0	21.7	39.4	32.1	1.8	1.0
収益（当月）	3.5	32.2	39.1	22.3	3.0	-2.7



3. 販売価格DI

引き続きプラス圏で推移もゆるやかに下降傾向

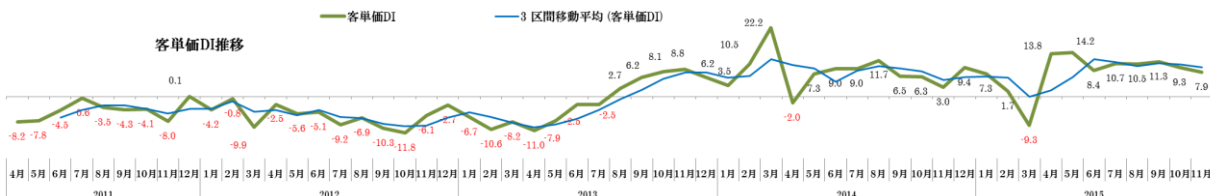
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	0.0	5.4	46.6	45.7	2.2	11.2
販売価格（当月）	0.5	7.4	52.5	38.6	1.0	8.0



4. 客単価DI

引き続き高水準を維持し8ヵ月連続のプラスもゆるやかに下降傾向

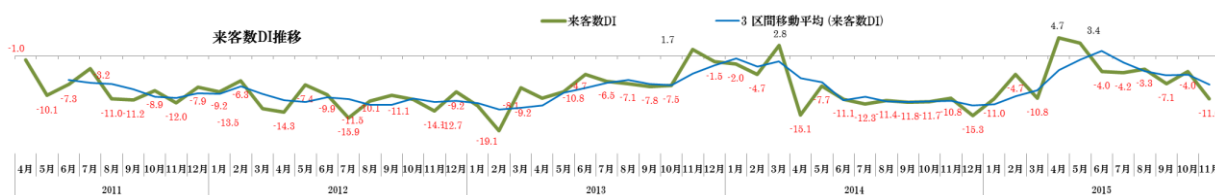
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	0.0	12.6	38.6	48.0	0.9	9.3
客単価（当月）	0.0	10.8	47.3	41.4	0.5	7.9



5. 来客数 DI

やや大きく下降し6ヵ月連続のマイナス

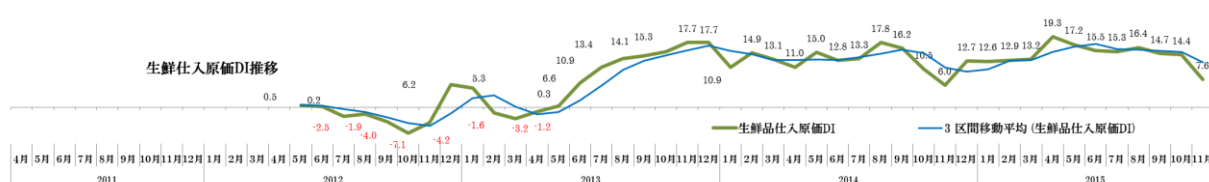
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	4.9	33.0	36.6	24.1	1.3	-4.0
来客数 (当月)	10.4	38.1	37.1	13.9	0.5	-11.0



6. 生鮮仕入原価 DI

2014年11月以来の一桁水準まで低下

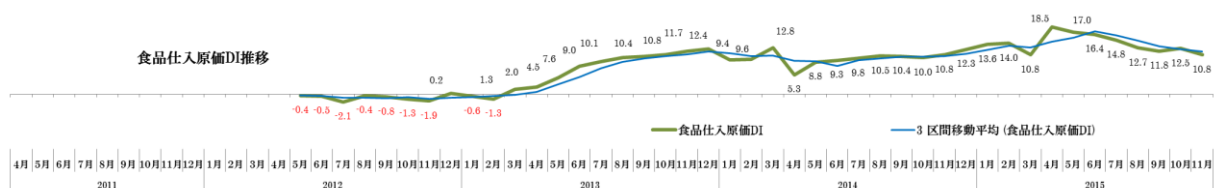
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	0.9	6.3	33.5	52.9	6.3	14.4
生鮮仕入原価 (当月)	2.5	8.5	48.0	38.0	3.0	7.6



7. 食品仕入原価 DI

ゆるやかに下降傾向も引き続き高水準を維持

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	2.3	3.6	39.6	50.9	3.6	12.5
食品仕入原価 (当月)	1.5	3.5	47.3	45.8	2.0	10.8

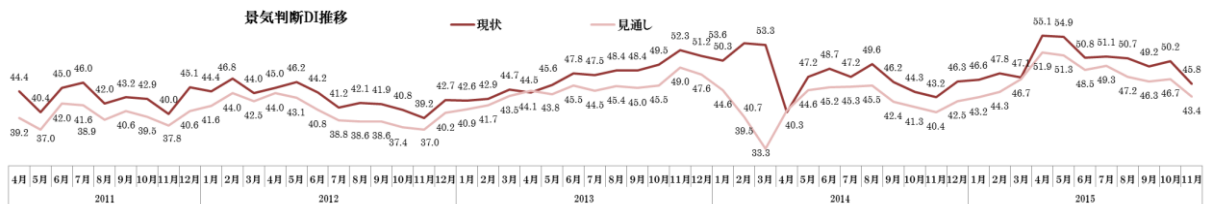


II. 景況感調査 (2011年4月～/周辺地域景気判断のみ2010年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

現状、見通し判断共に悪化

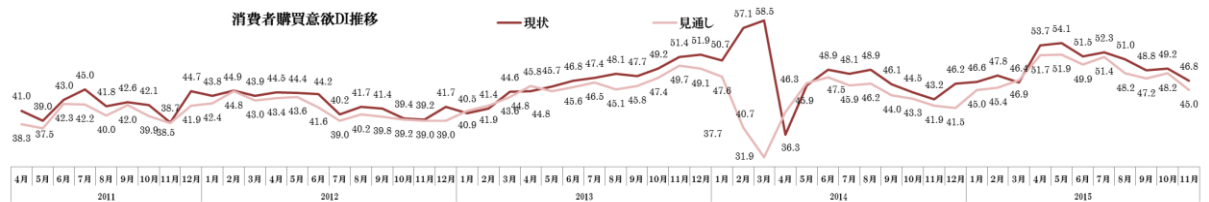
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	0.9	15.1	66.2	17.8	0.0	50.2
【現状】景気判断 (当月)	1.5	27.2	57.9	13.4	0.0	45.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	1.3	24.9	59.6	14.2	0.0	46.7
【見通し】景気判断 (当月)	2.0	33.2	54.0	10.9	0.0	43.4



2. 消費者購買意欲 DI

現状、見通し判断共に悪化

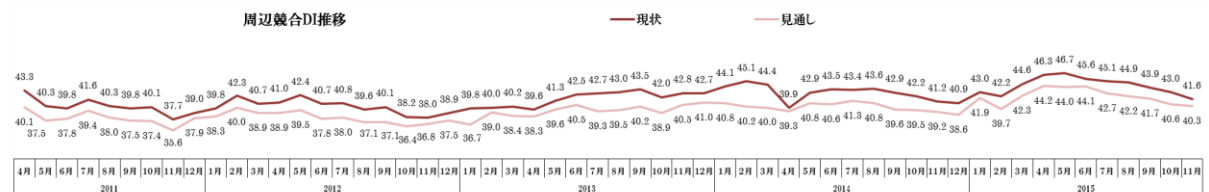
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	0.4	13.3	75.1	11.1	0.0	49.2
【現状】購買意欲 (当月)	0.0	23.3	66.3	10.4	0.0	46.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	0.4	17.4	71.0	11.2	0.0	48.2
【見通し】購買意欲 (当月)	0.0	26.7	66.3	6.9	0.0	45.0



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

ゆるやかに下降傾向をたどる

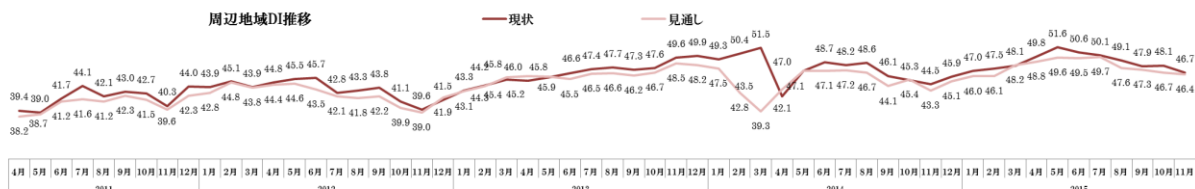
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	4.4	22.7	69.8	2.7	0.4	43.0
【現状】競合状況 (当月)	5.0	26.2	66.3	2.5	0.0	41.6
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	5.8	28.4	64.0	1.3	0.4	40.6
【見通し】競合状況 (当月)	5.4	30.2	61.9	2.5	0.0	40.3



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

共に50を割り込む水準でゆるやかに下降傾向

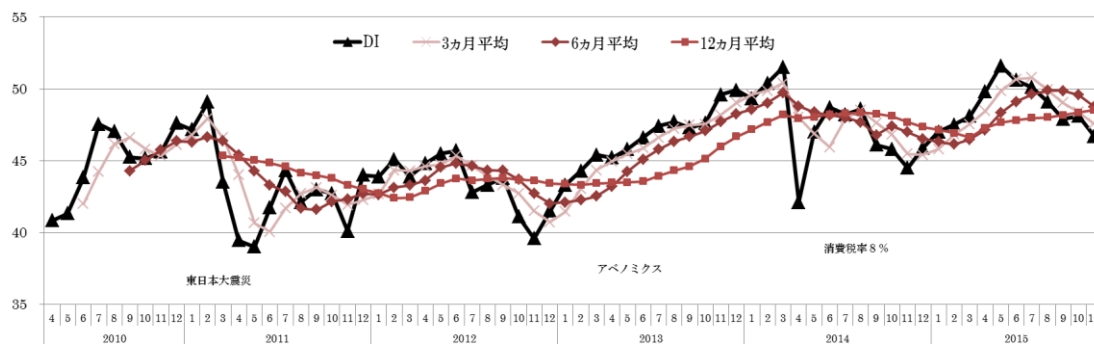
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気(前月)	0.0	11.6	84.4	4.0	0.0	48.1
【現状】地域景気(当月)	1.0	14.4	81.7	3.0	0.0	46.7
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気(前月)	0.4	16.5	79.0	4.0	0.0	46.7
【見通し】地域景気(当月)	0.0	17.8	78.7	3.5	0.0	46.4



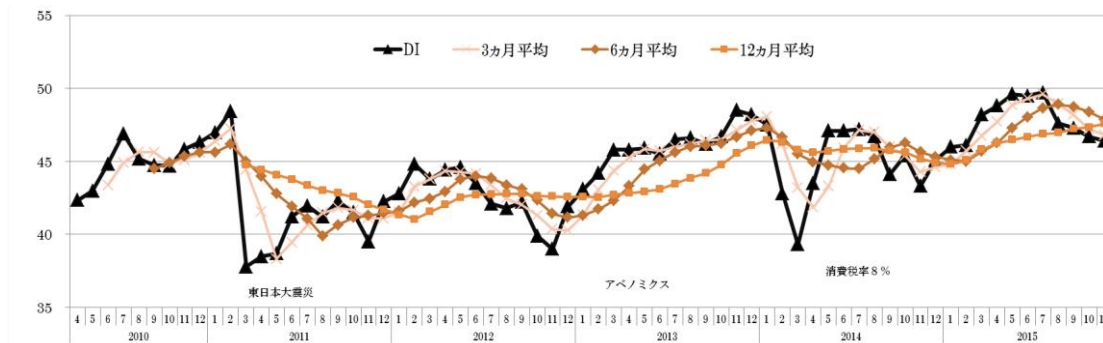
長期傾向 (2010年4月～)

2012年11月以降上昇を続けていた「中核店舗周辺地域景気判断DI」は、2014年4月の消費税率引き上げの影響を受け下落した。その後、5月に持ち直すものの、6月～8月まで横ばい推移、9月～11月では再び下落となった。消費税率引き上げ後、3ヵ月周期でトレンドが変化し、方向感の見えにくい状況であったが、12月以降は6ヵ月連続の改善となり、2015年5月には調査開始以降で最高水準にまで上昇をみせた。その後6月以降は一転して下落が続いている。直近11月は下落の速度がやや早まった。引き続き12ヵ月平均線のみがわずかなプラスを維持しているものの、他の平均線はマイナス方向に転換している。

現状判断 (中長期傾向)



見通し判断 (中長期傾向)



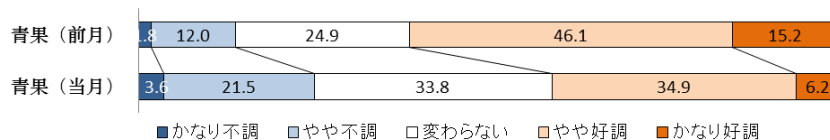
Ⅲ. カテゴリー別動向

カテゴリー別動向 DI による好不調判断

かなり好調：20 以上・好調：10～20・やや好調：0～10

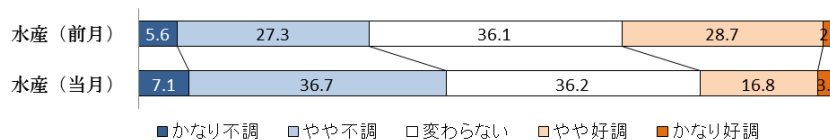
かなり不調：-20 以下・不調：-20～-10・やや不調：-10～0

1. 青果 DI：4.6（やや好調）



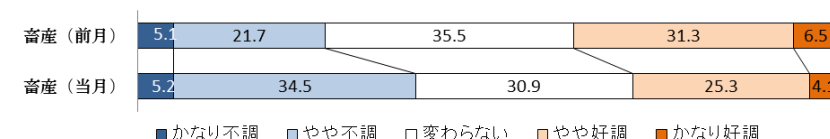
月を通じて気温が高い気候となったために鍋物商材、特に菌茸類に影響があったほか、野菜類は中旬以降相場安傾向となりその対応により好不調分かれる結果となった。サラダ関連のレタスやトマトは好調であったとのコメントが多い。果物ではみかんは好調とするコメントが比較的多く、一方でりんごやいちごは相場が高く不調とするコメントが多くなった。

2. 水産 DI：-7.0（やや不調）



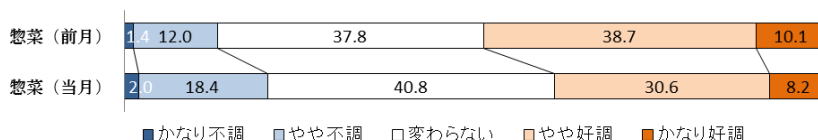
生鮭やさんまの不漁、かきが生育不良による小型化や、気温が高い状況により鍋物需要が大きく低下した影響によりやや不調となった。一方で刺身や切り身は好調に推移したとのコメントが散見された。

3. 畜産 DI：-2.8（やや不調）



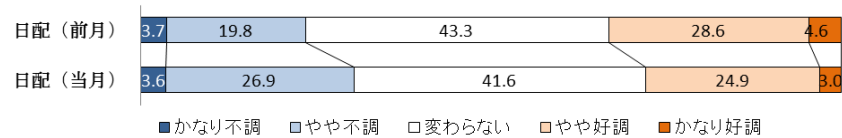
気温が高い影響で鍋用商材が非常に鈍くなったことや肉加工品について発がん性報道から特にハム、ウインナーの落ち込みが大きかったためやや不調となった。価格の安い輸入牛などが好調である一方で、国産牛は引き続き相場が高く不調とのコメントが多い。豚肉は相場が安定してきたため、好調とのコメントが多い。

4. 惣菜 DI：6.1（やや好調）



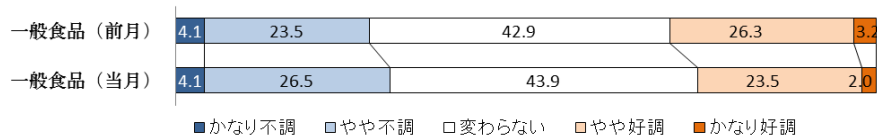
新商品の投入や出来立て提供など取組み成果によりお弁当や揚物が好調とするコメントが多くみられた一方で原材料価格の上昇や人員不足により利益の確保が難しいとのコメントも散見された。

5. 日配 DI：-0.8（やや不調）



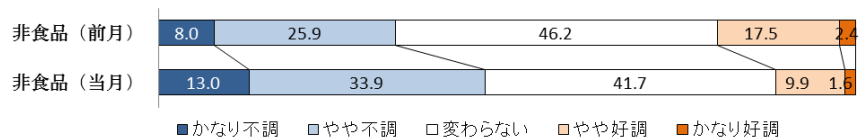
気温が高い影響で鍋用商材が非常に鈍くなったが、一方で飲料系は好調となった。また健康を意識したヨーグルト飲料をはじめとする乳製品やプレミアム系のアイスクリームが好調とのコメントがみられた。

6. 一般食品：-1.8（やや不調）



鍋関連需要としてのつゆ等が不振であった一方で、米は前年より価格が上昇しており好調とするコメントが多かった。引き続き健康訴求の食用油が好調とのコメントがみられる。値上げ等による単価の上昇による売上高への貢献を指摘するコメントが散見された。

7. 非食品 DI：-11.7（不調）



カイロをはじめとする冬物商材の動きが悪かったことやドラッグストアやホームセンターとの価格競争により不調となった。

2015年12月調査（11月実績）キーワードTOP3

1. 気温が高い
2. 青果相場中旬以降下落
3. 他業態との競合

スーパーマーケット景気動向調査

11月実績速報版集計 204社
10月実績確報版集計 225社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp